

つじぜん の すけ

辻善之助 (1877-1955)

『日本仏教史』全10巻、
岩波書店、1944-55

辻は、戦前の日本史学界を代表する実証主義の研究者で、東京大学史料編纂所の初代所長であった。本書は、辻が東京大学で行った講義録に手を加えて、刊行されたものである。上世篇(1巻)、中世篇(5巻)、近世篇(4巻)という構成であり、明治維新前で終わっている。辻には、『明治仏教史の研究』、『明治維新神仏分離史料』という編著があるが、明治以降の宗教史はこれらの書物に委ねた形である。辻のねらいは、日本文化の一要素として仏教の沿革史を描くことであり、また仏教が国民文化の全分野に及ぼした影響を叙述することにあつた。具体的には、文学、思想、印刷、学問、医学、建築、音楽、社会事業などの領域に、仏教の影響は広く及んだのであり、仏教を除いては日本歴史を考えることは不可能であることが強調されている。本書の意義は、基本となる史料が網羅的に引用された百科全書的な機能にあり、今なお仏教史の研究にとっては必読の文献である。教理史、宗派史とは異なる実証的な手法に徹して、古代・中世・近世の社会動向と関連させて仏教史を描いたもので、前人未到の業績である。当初は全5巻の予定であったが、1巻のはずの近世篇が4巻になるなどして全10巻の大著になった。

本書の近世篇では僧侶が墮落したことが強調されているために、辻の見解は近世仏教＝墮落論として批判克服の対象とされてきた。しかし本書の全体を鳥瞰してみると、僧侶の腐敗墮落→為政者による統制・肅正→仏教の復興というサイクルはどの時代にも見られることとされており、通史を叙述するための緩やかな物語にすぎず、辻の意図は、日本文化史の一領域として仏教史を樹立することにあつた。

●林淳

【参考文献】辻善之助ほか編『明治維新神仏分離史料』東方書院、1925。／辻善之助『明治仏教史の問題』立文書院、1949。／辻善之助先生生誕百年記念会編『辻善之助博士自歴年譜稿』続群書類従完成会、1977。／林淳『辻仏教史学の継承と批判』田丸徳善編『日本の宗教学説』東京大学宗教学研究室、1982。

つじなおしろう

辻直四郎 (1899-1979)

『インド文明の曙—ヴェーダとウパニシャ
ツド』岩波新書、岩波書店、1967

インド婆羅門教聖典「ヴェーダ」の概説書。リグ・ヴェーダ(前1200頃編集)など諸ヴェーダ、プラーフマナ、古ウパニシャッド(前6C頃中心)を訳例を交え解説する。インド・ヨーロッパ語族、インダス文明、社会背景等にも配慮し、20世紀前半までに達成された知見を堅実に集約した標準的な書である。

それだけに誤解を与える記述には注意が必要である。ソーマは辻自身が詳説するように植物(おそらく麻黄)の絞り汁で「神酒」は不適切。インドラは「雷霆神」ではなく、ヴァジュラは「電撃」ではなく「棍棒」である。ムンダー語、ドラヴィダ語からの借用語が現れるという指摘は具体性を欠く。リタには「天則」より「天理」が適切か。

ヴェーダ文献は当時の世界理解の学を動員した「真実」の言葉を編集したもので論理を基盤とし、美文や神秘的言辞を主眼としない。辻の訳例は時に文献スタイルを誤解させる。

ラウの古代インド社会の研究(1957以降)が活用されず、ゲルトナーのリグ・ヴェーダ訳(1951、印刷は20年代。辻は留学中にゲルトナーが最終稿を見るのに立ち会う)を懐疑的に紹介する点などは時代的制約である。

言語、祭式、思想、生活等に関するその後の研究の進展はめざましく、とくに印欧語比較言語学における成果は重要である(マイルホーファーの語源辞典は多面的な情報を提供する)。平明簡素な邦訳に基づく新たな概説が必要とされている。

わが国のヴェーダ研究を長年一人で背負ってきた辻にはリグ・ヴェーダ、アタルヴァヴェーダ抄訳(岩波文庫)、プラーフマナ抄訳『古代インドの説話』(1978)、文学作品の邦訳、自選論文集『ヴェーダ学論集』(1977)、『辻直四郎著作集』全4巻(1981-82)、『サンスクリット文法』(1974)(規範的な性格が強く実用・研究には多少不向き)などの著作がある。貴重な蔵書は東洋文庫に所蔵。

●後藤敏文

宗教学文献事典

平成 19 年 12 月 15 日 初版 1 刷発行

編 者 烏蘭進・石井研士・下田正弘・深澤英隆

発行者 鯉 淵 友 南

発行所 株式会社 弘 文 堂 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1 の 7
TEL 03(3294)4801 振替 00120-6-53909
<http://www.koubundou.co.jp>

装 丁 松村大輔

印 刷 三美印刷株式会社

製 本 牧製本印刷株式会社

© 2007 Printed in Japan

Ⓜ 本書の全部または一部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター（03-3401-2382）にご連絡ください。

ISBN978-4-335-16048-6
